現場代理人常駐義務を緩和
2500万円未満工事で
江田島市

【呉】江田島市は、建設工事における工事現場への現場代理人の常駐義務を緩和する。現場代理人の適切な配置を推進するため、一定の要件を満たす工事について、現場代理人の常駐義務を緩和し、併せて一定の範囲内で他の工事現場の現場代理人等との兼務を認める。

請負金額2500万円未満の建設工事（建築一式工事は5000万円未満）に適用し、兼務する工事件数は同件工事を含め3件（災害復旧工事及び路線委託に係る件数を除く）以内。兼務する全ての工事現場間を概ね10分以内で移動が可能とする。

受注者は、必要な資料を添付して発注者に申請し、承認の適否を決定する。施行は、1月16日以降に契約する工事から実施する。

最高点は松尾建設（2件）、山陽建設工業、洋伸建設がマークした80点となっている。

全24件のうち、75点以上の工事成績評定は次の通り。

▽工事名＝請負者、工事成績評定点の順

修等＝洋伸建設、80点▽小月（山陽）（22）宿舎新設建築その他＝松尾建設、

「この人」に聞く

一般社団法人コンクリートメンテナンス協会
会長
徳納 武使 氏

産官学で補修基準統一 働きかけ
診断士試験講座 合格50%めざす

道路・橋・トンネルなど老朽化した社会インフラの維持管理は深刻な社会問題として認知され、政府が掲げる国土強靭化などもあってより注目度が増している。そこで、（一社）コンクリートメンテナンス協会長として亜硝酸リチウム圧入工法の普及だけでなく、技術の底上げや技術者育成などにも力を注いでいる徳納武使氏に近況や今後の活動展開を聞いた。

―これから補修分野はますます活躍の場が増えると思われます。今後の展開は。

「機運が高まるのは良いことだが、発注者・設計者・施工者問わずレベルアップを行うことは絶対に必要なこと。ただ、補修は新設と違い統一された基準がないため、それが全体的なレベルアップを妨げる要因になっているようにも感じている。そこで、産官学で検討の場を設け、勉強会を重ねながら技術基準の統一を図っていくような働きかけを現在進めている。来年度から本格化させていければ」

―勉強会のメンバーは。

「当会のほか、一定の知識を有する診断士の集まりである中国地方各県のコンクリート診断士会が中心になってくると思う」

―技術のレベルアップといえば、来月14日には協会主催で『コンクリート診断士試験の傾向と対策講座』が開かれます。

「『コンクリート診断士試験合格指南』（日経コンストラクション）の著者で過去には試験問題の作成も手がけられた十河茂幸氏がメイン講師を担当されることもあって、50人の定員枠はほぼ埋まった。今回はHPの中に受講者専用ページを作って講習会の際にパスワードを配布し、試験までの間に質問を受け付ける新たな取り組みも行う予定で、診断士試験は合格率15%程度とされる難関だが、講座を受けられた方については合格率50%を目指したい」

―恒例の『コンクリート補修・補強に関するフォーラム』も好評のようです。

「毎回多くの方にご参加いただいており、昨年は全国約20カ所で開催したものを今年は29カ所で行っていく。特に広島会場では補修業界の権威を講師に迎え、これまで以上に大々的なものを行うべく計画を立てている。また、これまでは内容の半分以上を劣化の基礎的な知識に割いてきたが、今後は亜硝酸リチウムの圧入工法の比率を高め、より特化したものにしようと考えている」

―最後に、協会で推進されている亜硝酸リチウム工法の近況と展開についてお聞かせください。

「ひび割れ低圧注入の『リハビリシリンダー工法』はすでに広島県の標準工法と呼べるほどになったし、油圧式高圧注入の『ASRリチウム工法』も順調だ。最も新しい簡易型高圧注入の『リハビリカプセル工法』も今年度3件の施工実績を得た。材料となる浸透拡散型亜硝酸リチウム『プロコン40』の出荷量で言えば昨年度の5tから今年度は約30tに増えている。いずれもNETIS登録の技術であり、さらなる普及を図るとともに、建築分野にも広げていければ」

改名元年 さらなる発展を
福山建設工業協会 新年互礼会開く

あいさつする三宅会長

【福山】今月1日に発足した福山建設工業協会（三宅孝一会長）の新年互礼会が24日、福山市三之丸町の福山ニューキャッスルホテルであった。会員ほか、広島県、福山市からの代表者ら約50人が一堂に会し、相互の親睦を図った。

冒頭、三宅会長は「昨年末の政権交代以降、さまざまな政策が打ち出されており、若干の明るい兆しがみえる」と述べ、「平成19年以降、福山防災連絡協議会として活動してきたが、今年は改名元年にあたる。これまでの活動を継続しながら、さらなる発展を目指していきたい」とあいさつ。今後は「地域に貢献できる団体」を強調し、「会員の拡大を図るとともに、地域の建設業が抱える諸問題の解決に向けた活動を展開していきたい」と抱負を語った。

来賓には、広島県東部建設事務所の宮本寿夫所長、福山市建設局農林土木部の佐々木敏文部長を招いた。宮本所長は「安全・安心な広島県づくりに協力をお願いするとともに、適正な運営に努めてもらい、今後の活躍を期待する」と激励。一方、羽田皓市長の言葉を代読した佐々木部長は、入札制度に触れ、「市内企業の受注確保に努めていきたい」と市の方針を伝えた。

祝宴前には、府中市の和太鼓愛好家でつくる『備後国府太鼓』が迫力ある演奏を披露。その後は、駅家工務店の高本俊徳氏による発声で祝宴に入り、親睦を深めた。

2月9日に設計者が説明会

三次市が老朽化が進んでいる三次市文化会館の代替施設として同市願万地への建設を計画してい